



小林市キャリア教育支援センター
キャリア教育コーディネーター
(商工会議所内)

ふじた えいじ
藤田 英二 さん

学校という枠を超え、 多くのことを学び、悩むことで 新たな可能性を広げてほしい

情報技術の革新により、日々社会情勢が変わっていく現代社会。大学入試や就職試験でも学力以外に問題発見・問題解決能力などが重要視されている。そういった変化に対応するためには必要性が高まっているのが「キャリア教育」だ。市では、学校と企業との懸け橋役として、昨年5月に「キャリア教育支援センター」を設置し、同センターでキャリア教育コーディネーターを務めているのが藤田英二さん、67歳。

藤田さんは、事業に賛同する企業を見つけたり、学校の依頼を受けて企業からゲストティーチャーを招へいしたりするなど、学校と企業との橋渡し役を担う。現在、協力企業は市内外の38社で、今年度、市内11校が活用している。

「小林では都会に比べて子どもたちが、世の中にさまざまな職業があることを知る機会が少ない。そこで、実際に働く人の話を聞き、少しでも選択の幅が広がればと考えています」。

学校の授業以外でも2月10日に「小林近未来ハイスクール」を開催。中高生と社会人が一緒に「働くこと、生きること」について考えるワークショップを行った。「友達の将来の夢や社会人の話を聞き、将来について考える場を作りたい」と思い開催しました。さまざま

な話を聞き、学んだり悩んだりすることで、新たな発想が生まれ、今までできなかったこともできるようになるはず。それを積み重ね、可能性を広げてほしい」。

今後、同センターでは夏休み期間などにも活動の機会をつくり、子どもも大人もスキルアップできる場を提供していく。

「子どもたちが学校という枠を超えて、将来の自分について考える場を作っていききたい。そのための支援をこれからも続けていきます」と将来を見据える。



④・⑤ さまざまな職種の社会人の話を聞く子どもたち。今後、協力してくれる企業を募集しています。

小林人
こばやしびと
Vol.74